

川崎市民のための
生涯学習情報誌

Stage Up

ステージ・アップ

通巻 No.187

2012年8月1日 発行

(隔月発行)

ホームページからも
ご覧いただけます!



シリーズ「市内美術館・博物館とその所蔵品から」
中村正義 「二人」
中村正義の美術館所蔵

誌上ギャラリー

中村正義は1950年の日展で、27歳で特選を受賞した愛知県豊橋市生まれの日本画家です。革新と前衛の担い手として日本画に新たな境地を開きました(1977年52歳で逝去)。

1988年、住まいを美術館として開館、全国ファンに支えられて今日を迎えています。

「二人」は日展をやめて自分の作風を模索していた時期の作品(油彩)のひとつです。中村正義の生涯を描いたドキュメンタリー映画「父をめぐる旅」が今秋には公開の予定です。また、9/15~10/14には川崎市市民ミュージアムで「中村正義の顔」展も開催されます。(本誌P8に詳細)

美術館所在地:麻生区細山7-2-8 小田急線新百合ヶ丘・読売ランド前駅
京王線京王読売ランド駅からバス細山下車5分 電話044-953-4936
開館日:3,4,5月と9,10,11月の金・土・日・祝 11時~17時

もくじ

- 2 まち・ひと・多面体
- 3 シニアのパレット
- 4 特集 “ボランティアに励む若者たち”
- 6 施設めぐり
- 7 情報ポケット



発行・(公財)川崎市生涯学習財団

〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1

TEL 044 (733) 5560(代)/FAX 044 (739) 0085

<http://www.kpal.or.jp/>

ステージ・アップ TEL 044 (733) 5811

E-メール: stage-up@kpal.or.jp

当公益財団は市民の主体的な学びと活動を支援するための諸事業を推進しています。

まち・ひと・多面体

朗読の魅力に惹かれて ～朗読「響の会」三二発表会の取組から～



この日共演した群読の会「やまびこ」



「響の会」は活動を始めて14年、川崎区にある教育文化会館で受けた講座が母体になっ

てできたサークルです。この日は第10回の発表会、ミューザ川崎シンフォニーホールの市民交流室で行われました。交流室といっても音響板などの設備を備えたすばらしい環境、広さからいっても朗読の発表に最適な会場のように思われました。発表会には群読サークル「やまびこ」も協力サークルとして出演しました。

両会とも指導は青木信雄さん、川崎の教育界に長く貢献され、退職後も今日まで朗読や自分史づくりの勉強会の指導を続けてこられました。平成23年度の“川崎市文化賞”を受賞された方です。会員の中には何十年前?の教え子もいました。十数人が月に2回、水曜日の午後、市立体育館の会議室などに集まって練習を重ねています。



青木信雄氏

朗読の発表に先立って披露(ひろう)された発音発声練習では口を大きく開け、お腹一杯に息を吸い込ん

で「アエイウエオアオ、カケキクケコココ…」と、力強く声を出します。「これは心身の健康に最適の活動だ!」というのが第一印象でした。

プログラムの第一部は民話から始まり、古典歌集の代表「万葉集」、児童文学者西本鶏介の短編、新美南吉と続きます。長崎で原爆と闘った医師永井隆作「この子を残して」は5人で読み分けました。愛するものを残して死を迎える永井博士の無念が胸に迫りました。

一人語りあり、二人語りあり、十数人の群読あり、第二部の発表も力演でした。最後は小泉八雲原作の「津波『命を救った稲むらの火』」、東日本大震災への思いが重なるすばらしい朗読でした。発表の節目に打ち鳴らされる青木さんの拍子木の音も会の雰囲気盛り上げていました。



「まず第一に大変なのは朗読に適した本を探すこと。図書館に通い続けています。それもとてつと勉強になっています」と言う会員の声には実感がこもっていました。川崎市教育文化会館で毎年行われる“教文まつり”でも朗読の発表をしています。

■問合せ：野口茂子 ☎ 044-333-6237

川崎市民交響楽団“川響” ～心、響き合わせて60年～



1952年の誕生以来、熱心な活動の歴史を積み重ねてきた川崎市民交響楽団(川響)が、この4月、創立60周年記念演奏会を開きました。定期演奏会はこの日でなんと175回目、国内で最古参の一つと言えるアマチュア交響楽団が、川崎の街にあるのです。

この日、演奏会場となった教育文化会館大ホールの舞台には、20～80代まで幅広い年齢層の団員・団友約100人が勢ぞろい、満員に近い会場は音楽を愛し川響を愛する人たちの熱い拍手に包まれました。

運営委員長の田中徹男さんは市内で法律事務所を開く弁護士さん、若いころから親しんでいたオーボエを手に演奏する姿には、音楽を表現する喜びがあふれていました。

副委員長の市川雅英さんは、ご長男のお嫁さんのシェリーさんと並んでバスーンを奏でていました。市川さんは文字通りの音楽一家、奥様の敦子さんはバイオリンパートで共演、二人のご子息は共にプロの演奏家

として活躍しています。ご自身は器用だったお父様手作りのバスーンを手にし



本番前、友の会会員のためのプレコンサートから

て以来この楽器に親しんでこられたとか、川響に所属して50年余になるそうです。

この日の演目はシューマン作曲の劇音楽「マンフレッド」序曲、NHK交響楽団首席フルート奏者神田寛明さんをゲストに迎えたモーツァルトの「フルート協奏曲第2番」と熱演、好演が続いた後、マーラーの大曲「交響曲第1番 巨人」に挑みました。川響とのつながりの深い指揮者三原明人さんの魅力的なタクトと、大編成の迫力満点の演奏に魅了されました。

川響は毎週月曜日の夜7時から川崎区にある富士見中学校の特別活動室等で練習をしています。この夜の曲は「新世界」、職場や家庭から駆けつけて来た団員たちは、息を整える時間も惜しむかのように、練習に臨みます。三原さんの熱心な指導のもと、室内は真剣勝負の醍醐味、音楽を創る喜びに満ちていました。



■次の演奏会：「ミューザ川崎市民交響楽祭」(川響が幹事団体の演奏会) 9月2日(日) 14:00～ エポック中原
■問合せ：事務局 ☎ 080-1275-1056 (ただし18～21時の間)

シラカシの先には
三色の餅



里山フォーラムin麻生

～あさおの里地里山！その恵みを未来へ～

多摩丘陵に広がる美しく豊かな自然の景観を未来に残そうと活動している麻生区民が集って、2001年3月、「里山フォーラムin麻生」の活動が誕生しました。区民協働推進事業・麻生里地里山保全推進事業の一環として取り組んでいるこの活動は、年1回定期的にフォーラムを開催するほか、「わたしのまちのホッとする風景写真展」や地元農産物試食会など様々な活動に取り組んでいます。また、9月から12月にかけては12回の講座「里地里山ナチュラリスト入門講座」（以下、講座という）も開かれています。今回は講座のひとつ、そして、フォーラム取材しました。

どんど焼きに学ぶ

毎年小正月（1月15日）の前後、全国各地でどんど焼き（地域によって「とんど・どんどん・左義長・才の神」など様々な呼び名がある）が行われます。



1月15日(日)、麻生区早野聖地公園近くの農地に立派なやぐらが組み立てられました。百本を超える青竹や笹の束などをわら縄でしばってあり、その周りに門松・注連飾(しめかざり)・ダルマなどが置かれています。午前の講座「どんど焼きへ参加し、学ぶ」には約30人の受講生が参加、やぐらが組み立てられる様をつぶさに学びました。煙や灰が敬遠されるのでしょ
うか、各地のどんど焼きの行事は減りつつあります。市内に早野地区のような本格的な取組はいくつ残っているのでしょうか。やぐらが崩されたあと、長い柄にくくりつけられたシラカシの三つ又の先の餅を、地元の子どもたちが嬉しそうに焼いていました。

雑木林の学習 ～冬の観察会～

2月11日(土)、王禅寺ふるさと公園で、冬の観察会「雑木林の観察会～冬芽や越冬蝶を観察してみよう～」がありました。

公園での自然観察に先立って、近くのコミュニティーセンターで「冬芽；草花遊び；越冬蝶」と題した学習会が行われました。講師は地元にお住まいの高柳芳恵さん、絵本作家であり自然愛好家であり、図書館や学校で読み聞かせ活動などをされている方です。

高柳さんは公園や街路にはえる草木がきれいに刈り込まれていることを繰り返し話題にされました。寒い冬の季節、春を迎えるために健気に準備をすすめる冬芽たち、落ち葉の裏側で暮らしている小さな虫たちが、枝を払い落ち葉を掃き集めて「きれいになる」環境の裏側で、「美化・管理」の名のもとに消えていくひとつの命に気づかされた瞬間でした。

一枚の葉を落とした後の小枝の窪みに目を凝らすと、

それぞれに豊かな表情があることに気づかされます。目や鼻や口のように見える窪みの「顔」は葉が大きくなるための栄養の通り道なのです。その表情は木によって異なります。

「言葉（草木の名前）から始めるのではなく、観察と興味のために分類・整理された言葉があるのです」と話す高柳さんのお話を胸に、近くの王禅寺ふるさと公園に移動しました。



お話の後は観察者の目の付け所も変わります。「これは葉の芽だ」「この花の芽は雌花の芽かな？雄花の芽かな？」互いに体を寄せ合うように観察を続けます。ドングリをつまみあげて「育ててみようかな」と微笑みを浮かべている人もいました。この日の参加者は26～27人、ご夫婦での参加も見かけられました。

2012里山フォーラムin麻生

3月10日(土)、麻生市民館を会場に、活動のメインイベントとも言える「2012里山フォーラムin麻生」が開かれました。今年のテーマは「集い語ろう！みどりと農の文化を未来へ」、早野囃子連による伝統のお囃子に始まり、区内小学校4校の発表、地場産ランチによる市民交流、そして、午後には「未来へ希望を」と題したシンポジウムと、盛りだくさんの内容でした。



子どもたちの自然体験や環境学習等に基づく発表には、会場いっぱいの参加者も熱心に聞き入っていました。

会場内では活動団体の展示ブースが設けられ、それぞれに工夫を凝らした展示がされていました。

緑の多い麻生の地で、里地・里山の土と水と光に育まれる命、人と人との交流を大切にして活動している人たち、学校を舞台に子どもたちの学習を支援している人たちの活動に感銘を受けました。



■ 連絡先：石井よし子事務局長 ☎ 080-6787-4123

E-mail: satoyamaforum@gmail.com

特集

私たちも がんばっています!

ボランティアに

こども文化センター・わくわくプラザ(以下本文中それぞれ「こ文」・「わくわく」と表記)、青少年の家、子どもで、若い市民がボランティアとして尊い汗を流しています。「今どきの若者たちは……」という大人の声を聞きか、どのような思いでボランティア活動に励んでいるのか……いくつかの施設を例に、充実したボランティア活

三田こども文化センター

8月28日は三田こ文の“第7回こ文まつり”の日。まつりは11時からですが、9時過ぎには中島実行委員長さんをはじめ、地元住民の方たちが多数集合。テント張りや机の運び出し、様々な出店の準備に汗びっしょりでした。

そんな準備に励む人の輪の中に、スクールカラーの紫紺(しこん)の印半纏(はんでん)を着た明治大学の学生さんがいました。



出店で活躍する明大生

生田環境デザイン部員の2人です。「明大というと駿河台や京王線の明大前を浮かべる人はいても、生田校舎の知名度はイマイチ。地元根付く大学にしたいのです……」とのこと、その思いには感心しました。こ文の子もたち



生田大橋 橋脚の展示作品

に、生田大橋の橋脚部にあったイタズラ書きを「一緒に消して絵を飾ろう」と声をかけたのも大学生たちでした。受験期にもかかわらず、「将来子どもにかかわる仕事に就きたいので」と言ってボランティアに通い続ける高3の須崎さんや、生田中学校家庭科部の生徒たちも大切な応援団になっています。

錦ヶ丘こども文化センター

8月24日、この日はこ文の「えんにち」、地元の中学校を卒業した東京工芸大学3年生で高校生のころからジャグリングとマジックをやっているという芸名PEI(ペイ)さんがボランティア出



曲乗りをするPEIさん

演、会場にあふれるほど集まった子どもたちも、引率の保護者たちも、PEIさんの熱演に目を皿のようにして夢中になって見入っていました。

ほかにもカキ氷売り場では高1男子の奥内さんがお手

伝い。テント内のカラーボールすくいや飲み物売り場では中・高校生女子がお手伝い。奥内さんは「子どもが大好きなんです。将来は先生になりたいんです!」と笑顔で話してくれました。女の子たちは「子ども会を卒業した後のシニアリーダーの会“サンフラー”活動で、この文化センターにははじめてもお世話になっているので、今日はお手伝いにきました」とのこと、無償の奉仕をする若者たちの姿に頭が下がりました。



活躍する女生徒たち

東百合丘こども文化センター + わくわくプラザ南百合ヶ丘小・わくわくプラザ長沢小

南百合ヶ丘小のわくわくでは保護者の迎えを待つ児童たちが個別の学習に取り組んでいました。精神保健福祉士をめざす田園調布学園大学2年生の芳賀さんは週1回わくわくに来て、学習の支援や遊びの相手をしています。芳賀さんは「子どもとかかわる場を持って楽しい」と熱心に取り組んでいます。



一人一人に学習の支援

長沢小のわくわくには月1回放課後、長沢中学校演劇部の生徒が通っています。自分たちで本を選んで、読み聞かせをしているのです。この日も2冊の絵本を読みました。チームワークのよい男女の部員たち。よく通る声、適切な問い、豊かな表情……さすがは演劇部です。「演技力の幅が広がるし、子どもたちがかわいし、やりがいがあります」と答えてくれました。部員の内3人は長沢小わくわくの出身者、



部長さんが読み聞かせ

読み聞かせの後のゲームの時間には笑い声が広がりました。

東百合丘こ文の木曜日は「リリーキッズ」の日。リリーとはユリのこと。この日、田園調布学園大学キッズホップサークルメンバー中6人が参加、40人を超える幼児・保護者と一緒に楽しくダンス。笑顔いっぱいで大活躍していました。ボランティアメンバーは子ども家庭福祉学科の学生達、保育士や幼稚園教諭を目指している若者です。



ちびっ子とメンバー

岡上こども文化センター

町田市と横浜市に隣接する飛び地にある岡上こ文は、和光大学と様々な連携をしています。

現代人間学部身体環境共生学科や心理学科の学生さん達が、運動遊びを基本にしたムーブメント教育・療法を取り入れた活動をしています。

“岡上・ムーブメント教室”は年10回の取組。12月のこの日は自由遊び、走行・歩行ムーブメントなどで心身をほぐした後学生扮するサンタの登場です。並んでプレゼントを待つという静止行動が子どもたちの期待を膨らませます。付き添いのお母さんたちも学生の巧みなリードでリラックス、部屋いっぱい笑顔がはじけました。

この日の学生は男女8人ほど、3年生の小関さんはこの活動をもとに子ども・母親・地域をテーマにした論文を書いているとか。遊ばせ上手な若者達には感心させられました。卒業後こ文の職員に採用された人もいます。



励む 若者たち



も夢パーク・・・市内にある子どもたちのための様々な施設で、中学生から高校生・大学生・社会人ま
ますが、若者たちから学ばされることもたくさんあります。若者たちはどのような活動をしているの
動をする若者たちの姿をご紹介します。

青少年の家

青少年の家では年間を通して様々な取組が行われています。その中のいくつかの活動で核となって活躍している若者たち、それがユースワーカーズ倶楽部 (K.Y.W.C.) のメンバーです。メンバーは少年仲間づくり「エコチャレンジクラブ」やキャンプファイアー、プール開放のサポートなどをしています。中でも最大のイベントは年に1度の祭り「青少年の家フェスタ」でしょう。前年度のフェスタは東日本大震災の影響で直前に中止となり、24年3月11日、2年ぶりに開催されました。



司会進行をするボランティア

このフェスタは倶楽部メンバーのほか、募集に応じて集まった青少年ボランティアが加わって展開されています。計約60人のメンバーは準備に余念がありません。本番当日も朝から会場作りやア
ナウンスの練習に励み、1,000人を超える来場者を迎えました。

通学合宿「ほのほのスクール」や宮前市民館の「こどもあそびランド」などの催しで出会った倶楽部員の活動などに惹(ひ)かれて集まり、広がった若者たちの輪、「活動に参加するようになって子どもたちに元気をもらい、おかげで自信ができました」と話す若者もいました。

青少年の家は文字通り“青少年のための家”、若者たちの活力があふれる“家”です。



夜遅くまで打ち合わせ



開会挨拶をする現部長

子ども夢パーク・・・“こどもゆめ横丁”の取組から

11月6日(日)、前夜来の雨も上がって、川崎市子ども夢パーク職員も、参加した子どもたちもホッと一息。23年度も1,000人を超える来場者で大にぎわいでした。

“こどもゆめ横丁”は「かわさき子どもの権利の日」の事業の1つとして毎年11月に行われています。夢広場では10月中旬から夢横丁の建設が始まり、菓子屋・お餅屋・うどん屋・アクセサリー店・ゲーム店、さらにはマッサージ店まで、3つの横丁に40店近い店が立ち並びます。店を商うのは全て子どもたち、輪投げ店の経営者は小学1年生でした。

助演・端役(はやく)はいません。参加者全員が“主役”なのです。その陰には職員と共に裏方として支える何人ものボランティアがいました。



横丁いっぱいのお客さん



小1の輪投げ屋さん

受付で「いらっしゃいませ！」と大声を張り上げるのは中3の佐藤さん。高1の高橋さんは前日から横丁作りに汗を流していたそうです。いずれも以前からの夢パークの利用者、「川崎市子ども会議」のメンバーでもあります。この日初めてボランティアとして参加した大妻女子大学児童学科の4人の大学生も、ゆめ横丁の盛況ぶりにびっくり。広場に落ちているサビ釘を拾ったり店の飾り付けを手伝ったりしていました。

子ども夢パークは、元気で熱心な若いボランティアたちの集いの場でもあります。

- ① **こども文化センターとは** 市内には民間児童館「すかいきっず」1館を含めてこ文が59館あります。“こ文”は年末年始を除く毎日、0歳～18歳未満の居場所として開かれています。また、子どもの健全育成、市民活動等に携わる地域の方々の地域活動拠点としても活用されています。館長さんやスタッフは地域で愛される魅力ある館をめざして、それぞれ独自に工夫した取組を進めています。
- ② **わくわくプラザとは** 113校のすべての市立小学校の敷地内に設置されています。こ文の館長が管理・運営するわくわくは、放課後や学校の休日に遊びや学習など様々な活動をする施設です。プラザ室はもちろん、校庭・体育館などの施設も活用します。日曜・祝日・年末年始はお休みです。
※上記①②の詳細は、最寄のこ文・「市役所こども本部青少年育成課 044-200-3083」等にお尋ねください。
- ③ **青少年の家とは** 青少年が宿泊研修等を通して社会性やルールを学ぶとともに、様々な体験学習をすることができる施設です。プレイホール・研修室・談話室・音楽室・創作活動室・園庭・プール・野外炊飯等の施設があります。施設利用は有料・予約制。宿泊料は年齢等で300円から1,500円まで。(空いていれば一般団体の利用も可能です) 東急田園都市線宮崎台駅徒歩12分。☎ 044-888-3588
- ④ **子ども夢パークとは** 「川崎市子どもの権利に関する条例」をもとに作られた子どもの、子どもによる、子どものための活動拠点です。多目的スペース、冒険遊びの場、不登校児童生徒の居場所“フリースペースえん”、夜間照明付きスポーツエリア、防音設備スタジオなどがあります。入場無料。休館日は年末年始と毎月の第3火曜日です。
JR南武線津田山駅徒歩5分 ☎ 044-811-2001

施設めぐり

市内公的施設および当財団が管理運営する施設のご紹介

とどろきアリーナ

JR南武線武蔵小杉駅からバス「とどろきアリーナ前」下車徒歩1分
または、JR武蔵中原駅下車徒歩15分 ☎044-798-5000

とどろきアリーナは国際規模のスポーツ大会やイベントが行われる市内随一の屋内スポーツ施設です。メインアリーナ・サブアリーナはもとより、トレーニング室、スポーツサウナなどが完備。中でも研修室は研修会や会議、ダンス等のスポーツが楽しめるだけでなく、飲食をともなう小パーティーもできる多目的スペースです。



小学生や15歳以上の方、幼児と保護者を対象にした20のスポーツ教室が常時ラインアップ、現在、第2期(9月～12月)の募集中です。

当日、自由に参加できるスポーツデー(平日・時間制・参加費300円)は、シェイプアップヨガやエアロビクスなど健康増進系の種目が大人気。小学生スポーツデーでは、トランポリンがおすすめです。キッズコーナーもたくさんの親子連れでにぎわっています。

トレーニング室では、初めての方にもインストラクターがついて体力に合ったコースを丁寧にアドバイスするので、安心して参加できます。また「生き生き元気教室」などの多彩なショートレッスンも用意しております。また、毎年夏休みには小学生の体操・卓球・トランポリン・フラッグフットボール教室も開いています(今年度の募集は終了しました)。ぜひ、おいでください!



中原市民館

JR南武線・横須賀線、東急東横線・目黒線武蔵小杉駅下車徒歩4分 ☎044-433-7773

中原市民館は、平成21年に再開発の進む武蔵小杉駅前地区の一角の高層マンション内に移転オープンした新しい社会教育施設です。多目的ホールや会議室、音楽室、体育室、料理室、喫茶スペースなどを備え、多くの市民の皆様にご利用いただいています。また、市民の皆様学習の機会を提供するために、さまざまな講座やイベントを開催しています。



〔生涯学習相談ルーム「アスク」〕

「習い事をしたい」「サークルに入りたい」「何かを始めたい」・・・そんなご相談にお応えするために設けられた相談コーナーです。相談員が皆様の「学び」のお手伝いをいたします。生涯学習に関する資料や図書もそろえていますので、気軽にお立ち寄りください。(事前予約は不要です)

- 日時：毎週水曜日(祝日・年末年始を除く) 10時～12時半、13時半～16時
- 会場：中原市民館 グループ室(1階)



大山街道ふるさと館

JR南武線武蔵溝ノ口駅・東急田園都市線溝ノ口駅下車徒歩7分
東急田園都市線高津駅下車徒歩5分 ☎044-813-4705

ふるさと館は高津区のほぼ中央を東西に通る大山街道沿いにあります。この街道は古くから東海道の脇往還として重要な役割を担ってきました。

当館は街道資料館として地域の歴史、民俗資料、地域にゆかりのある芸術家の作品を展示し、市民の方々には講演会など様々な学習の場を提供しています。また、街道を歩いて楽しむ方々の要望に応え、大山街道ガイドブック“訪ねて楽しい大山街道”を刊行しました。(1冊1,000円で販売中)



常設展を見学する探検クラブの子どもたち

市民参加の作品展では、高津区老人クラブ連合会による「趣味の作品展」を、また、7月8日(日)から29日(日)までは第1回企画展「ある郷土史家のみたふるさと溝口」を行いました。

子どもたちの郷土理解の学習支援を目的とした「ふるさと子ども出前授業」を4校で実施し、関連事業の子ども大山街道探検クラブの活動も充実させています。

8月には中学生を対象とした郷土理解講座「探ろう大山街道」を、そして、9月、10月には街道の歴史や文化を内容とする講演会を企画しています。



情報ポケット

市内施設の各種取組と当財団が主催する講座等のご案内

シリーズ 市内の短大・専門学校 “市民向け生涯学習の取組” ②

登戸ドレスメーカー学院

多摩区登戸2130-2 アトラスタワー2階(小田急線向ヶ丘遊園駅北口徒歩1分) ☎044-911-2221

登戸ドレスメーカー学院は昭和23年に開校し、以来60年以上ファッションや服飾に興味のある人の学びの場として親しまれている、歴史ある洋裁学校です。特に、ユニバーサルファッションについて学べる学校は、全国的にも大変ユニークなものです。

生涯学習講座として12の講座を展開しており、セット数は2～8回と異なりますが、基本的には都合の良いタイミングで受講をスタートできます。

【生涯学習講座】

- 洋裁教室自由科～初心者からプロ養成まで～●高齢者・^{がい}障害者のユニバーサル・ファッション技術講座 ●ファッションデザイン&縫製・初級・中級講座 ●同講座夜間部 ●ファッションリフォーム技術者養成講座 ●やさしい手作り服と小物作り入門 ●小・中学生のための、優しいソーイング教室 ●楽しい服作りとハートセラピー講座●セルフイメージアップ講座●オリジナル手作り布で楽しむ洋裁講座 ●コラージュアートセラピー講座 ●はじめてのジャズヴォーカル講座
- ※開設日・受講料・材料費・申し込み方法等の詳細はお問い合わせください。



24年度 第2期 健康・体力づくりスポーツ教室のご案内

川崎市生涯学習財団で主催する『健康・体力づくりスポーツ教室』の24年度第2期募集についてご案内します。ご参加をお待ちしています！

教室名 (定員)	開催期間	曜日・回数・時間	受講料(含む:保険料)
エアロビクス (40)	9/3～12/3(9/17・10/8休み)	月曜日・12回・10:00～11:00	8,400円
ボディメイクエクササイズ (40)	9/3～12/3(9/17・10/8休み)	月曜日・12回・11:15～12:15	8,400円
ヨーガA (45)	9/6～11/27(10/30休み)	火曜日・12回・13:30～15:00	8,400円
ヨーガB (45)	9/6～11/27(10/30休み)	火曜日・12回・15:15～16:45	8,400円
気功太極拳(火曜日コース) (40)	9/4～11/20	火曜日・12回・10:00～11:30	8,400円
気功太極拳(水曜日コース) (40)	9/5～11/21	水曜日・12回・13:30～15:00	8,400円
ストレッチ健康体操 (40)	9/5～11/21	水曜日・12回・15:40～16:40	8,400円
はじめての太極拳 (25)	9/12～11/14	水曜日・10回・10:00～11:30	7,000円
たのしいフラダンス (25)	9/6～11/22	木曜日・12回・10:00～11:15	8,400円
リズム&ストレッチ体操 (25)	9/7～11/9	金曜日・10回・10:00～11:15	7,000円

- 申込み：往復はがき(各教室1人1枚)に下記事項を記入(返信用にも住所・氏名を)
①希望教室名 ②名前(ふりがな) ③性別・年齢 ④住所 ⑤☎・FAX番号
- あて名：〒211-0064 川崎市中原区今井南町514-1
(公財)川崎市生涯学習財団事業推進室 スポーツ教室担当
- 応募締切：平成24年8月6日(月) 必着 ※応募者多数の場合は抽選
- 受講料払込等の案内：抽選結果等と合わせて、8月9日(木)以降に郵送します。
- 申込み・問合せ：スポーツ教室担当 TEL 733-5894 FAX 733-6697



あ と が き

春から秋にかけて、乗換駅の改札口付近などで、小旗の下にリュックを背負って集まる人たちの姿をよく見かける◆近郊の名所めぐりか、歴史探訪か、健康の維持増進を主目的としたウォーキングか◆「川崎市大山街道ふるさと館」が『訪ねて楽しい大山街道』を編んだ。地元の郷土史家や川崎ゆかりの人たちが協力を惜しかなかったと聞く◆全編、実地踏査した人にしか書けない解説、分かりやすい地図や写真で構成されている◆大山街道探検クラブの子どもたちが描いた川魚や野の草花のイラストも微笑ましい◆赤坂御門跡から大山阿夫利神社までおよそ80km、踏破とまではいなくても何カ所か歩いてみるのも楽しそうだ。

地域協働講座のご案内

2012年度 後期
受講生募集

〈地域協働講座とは〉NPO法人かわさき市民アカデミーと(公財)川崎市生涯学習財団との協働による企画・運営で、福祉や企業連携など、地域との密着性の高い講座です。

コース名	講座名	講師	受講料	日程・(曜日)	時間	定員
A 福祉	対話力アップ講座	川崎いのちの電話研修 担当者会代表 田中幸治	8,000円	10/24・31 11/7・28、12/5 (各日2コマ・計10回) (水)	13時～17時	45名
B 企業連携	地域社会に貢献している川崎の会社と人々 その5	市内企業8社の代表と研究者 ほか	8,000円 (当日受講券) 1,500円	10/11・18・25 11/8・15・22・29 12/6・13、1/17 (木)	13時半～15時	100名
C 川崎のまちづくり I	震災につよいまちづくり	河北新報社東京支社長 岩瀬昭典 ほか	4,000円	10/24・31 11/7・14・21 (水)	13時半～15時	70名
D 子育て支援	発達障がいへの理解を深める	早稲田大学准教授 高橋あつ子 ほか	4,000円	10/5・12・19・26 11/9 (金)	10時～12時	40名
E 医療最前線	医療最前線の現場から その2	日本医科大学武蔵小杉 病院副院長 田島廣之 ほか	4,000円 (当日受講券) 1,500円	11/28・12/5・12 1/16・23 (水)	13時半～15時	70名
F 川崎のまちづくり II	最先端技術「光触媒」が未来を作る	東京理科大学学長 藤嶋 昭 ほか	4,000円	10/6・13・20・27 11/10 (土)	10時～12時	100名

【申込み 7/5～8/17】……FAX:044-722-5761 または、郵送のみ
 「NPO法人かわさき市民アカデミー」
 〒211-0064 川崎市中区今井南町514-1 川崎市生涯学習プラザ3階
 ※ 詳細はお問合せください! TEL:044-733-5590 (平日の9:00～16:00のみ)

※定員に満たない場合は、9/29(土)までに、先着順で追加募集します。



川崎市市民ミュージアムの催しから

〈問合せ先〉044-754-4500

郷土・川崎を掘る

川崎考古学研究所の活動の軌跡

- 期 間：6月30日(土)～8月26日(日)
- 観覧料：一般500円(400円) 学生・65歳以上
300円(240円) 中学生以下無料
()内は20名以上の団体料金



壺型土器
(梶ヶ谷神明社
上遺跡出土)

川崎市市民ミュージアム

美術館名品展〈都市と人間のポリフォニー〉

当館収集作品、川崎ゆかりの作家たちの作品から

- 期 間：7月28日(土)～9月9日(日)
 - 観覧料：300円(240円)、学生・65歳以上200円
(160円)、中学生以下無料 ()団体料金
- ※ 映画上映プログラムは別途料金が必要



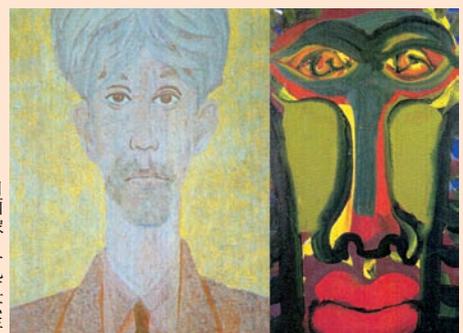
安田靉彦《草薙の剣》1973年

さわって、ふんで、声かけて!映像神話の現在形 スタジオ・アッズーロ展 —KATARIBE—

映像を使った作品(ビデオインスタレーション)を発表し
 続けてきたイタリアの現代アーティスト集団、スタジオ・
 アッズーロの日本初公開の新作を紹介します。

- 期 間：9月22日(土・祝)～11月4日(日)
- 観覧料：一般1,000円(800円) 学生・65歳以上800円(640円)
中学生以下は無料 ()内20名以上の団体料金

「中村正義の顔」展



自画像
一九五六年

顔
一九七〇～七六年

戦後の日本画壇において、日本画という
 枠にこだわらずに新しい表現を切り開い
 ていった画家・中村正義の代表作である
 「顔」シリーズを中心に作品を紹介します。

- 期 間：9月15日(土)～10月14日(日)
- 観覧料：一般600円(480円) 学生・65歳
以上400円(320円)
中学生以下は無料
()内は20名以上の団体料金